

提言

起ってほならない事件がついに起ってしまった。(8・15)

当日の朴大統領狙撃事件は犯人が在日韓国人であったとはいえ、いや、むしろそれゆえにこそ最近の日韓関係の屈折した航跡を浮び上らせずにはおかなかつた。金大中事件、日本人2学生の民青学連関連事件と、このところ相次いだ日韓関係のこじれはこの衝撃的な事件によって益々解き難いものになるかもしれないだけに、この不幸な事件を傷ましい転機として将来見做し得るものに是非ともしなければならぬ。もとより今回の事

件を招いた背景に韓国の政情が大きく作用していたことは否定できないし、金大中事件に關する韓国側の処置がまことに不明朗かつ不可解なものであったことも言を俣たない。だが一方、韓国問題に対する日本側の反応が右といわず左といわず、このところまったく冷

静さを欠いてい

たことのもつ重大な責任についても、我々は今こそ深く考えてみなければならぬのである。金大中事件は、事件そのものとして韓国当局が厳しく責められねばならないことがほぼ明瞭だが、そもそも金大中氏をわが国の政府・自民党の一部関係者までもが韓国の救世主である

かのようにチャホヤしたことが、韓国当局の危機的な苛立ちを増幅させ不祥事を起こさせる背景をつくったのではなかったか。

民青学連関連事件は、思いつがった新左翼くすれの青二才が、わが国の反体制運動の延長

戦のような甘えた気持で事に関係したのではなかったか。また、ペン・クラブの二人の代表が、今日のわが国において韓国問題が異常なあつかわれ方をしているとき、真意はともあれ、それに拍車をかける役割を担ってしまった。そうしたなかで一方では、

今こそ冷静な対韓姿勢を

「金大中詣で」が一部の知識人や国会議員によって売名的に行われはじめていて韓国民衆の神経を逆撫でしており、自民党の

AA研は、中国問題では北京政府と台湾政府に同時に代表を派遣するなどということは絶対に通用しないことを承知のくせ

が当然通用すべきこととはいはってみせる。金日成主席に頭を撫でられて帰ってきて韓国を批判する宇都宮議員の発言のなんと白々しいことが。要するに、このところ、わが国の側の一連の対応はあまりにも冷静さを欠いていたのであり、それに煽られて二十三才の

在日韓国人がビストルを朴大統領に向けて発することになったとしたら、問題は深刻である。日本国民がいまなすべきこと

は、韓国のおかれた国際政治上の位置と韓国内政の厳しい現実を直視しつつ、なお、そのような韓国のおかれた冷厳な現実に対処してゆくための新しい道を

冷静に求めてゆくことである。同時に、韓国の悲劇がこれ以上拡大しないためにも、韓国政府のかたくなな姿勢をさらに増幅させるような刺激を与えないことである。もはや遅すぎた感もあるが、当面、それしか方法はないであろう。

言論人 49, 8